

2025 年度

自己評価

2026 年 3 月 13 日

関東福祉専門学校

I. 学校の概要（2026 年 3 月 13 日現在）

1. 学校名および学校長名

（学校名） 関東福祉専門学校

（学校長） 小山 まり

2. 所在地

埼玉県鴻巣市中央 23-10

3. 沿革

年 月	事 項
1996 年 12 月	関東福祉専門学校、建物竣工。
1997 年 3 月	介護福祉士養成施設として厚生省より正式指定。 専門学校として埼玉県より正式認可。
1997 年 4 月	関東福祉専門学校開校。 初代校長に堀口佳哉が就任。
1997 年 6 月	大田保健専門学校（韓国）と姉妹提携。
1999 年 3 月	第 1 期生卒業。 本校、2 号館竣工。
2003 年 4 月	堀口佳哉が名誉校長に就任。第 2 代目校長に阪田震一が就任。
2007 年 6 月	創立 10 周年記念式典・記念講演会実施。
2008 年 4 月	1 学年定員 80 名から 40 名に減員。
2009 年 4 月	留学生受け入れ開始。職業訓練生（委託訓練生）受け入れ開始。
2010 年 4 月	EPA(経済連携協定)留学生受け入れ開始。
2011 年 4 月	介護雇用プログラム学生受け入れ開始。
2011 年 11 月	アンコール大学（カンボジア）と姉妹提携。
2015 年 4 月	介護福祉士実務者研修科（通信課程）設置。
2016 年 4 月	第 2 代校長阪田震一退任により、第 3 代校長に尾島朱美が就任。
2016 年 10 月	谷豊職業訓練学校（中国広州市）と姉妹提携。
2016 年 11 月	創立 20 周年記念式典・記念講演会実施。
2017 年 6 月	聖母医護管理専科学校（台湾）と姉妹提携。
2018 年 4 月	1 学年定員 40 名から 80 名に増員。
2020 年 4 月	学校法人 恵済学園に移管 第 4 代校長に小山まりが就任。
2022 年 4 月	学校法人 明星学園に移管

4. 設置課程・学科

分 野	課 程 名	学 科 名	備 考
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	介護福祉科	昼間部のみ

5. 学生数及び教職員数（2026年3月1日現在）

(1) 学生数 入学定員 80 名 総定員 160 名

第 1 学年	第 2 学年	合 計
47 名	33 名	80 名

(2) 教職員数

教 員	職 員	合 計
9 名	3 名	12 名

6. 建学の精神

社会福祉法人立としての特色を生かし* 福祉の現場と教育を結びつけた実践教育の視点から福祉の推進に寄与する専門職「介護福祉士」の育成に努める

また、介護に関する知識と技術を習得することに加えて 「真の人間理解と人に使え学ぶところ」を持ち続けられる

人間育成に重点を置く介護福祉士を目指し人間の福祉向上に貢献するスペシャリストを育成する
（*2020 年度より学校法人恵済学園となる。また、2022 年度より学校法人明星学園となる。建学の精神は設立当初のものである。）

7. 教育の基本方針

1. 人間性重視の教育の徹底を図る

1. 医療・福祉領域から信頼される実践教育及び協調性ある人材の育成を図る

1. 地域から支持され評価される規律ある教育及び指導を図る

1. 国際的視野で活動できる人材の育成を図る

1. 学生の卒後体制の確立を図る

II. 今年度の重点的目標と取り組み

a) 重点目標

1. 国家試験合格率の向上
2. 留学生の日本語能力強化・学校全体の授業の質向上
3. 除籍退学者の減少
4. 学生数確保
5. 教員の質向上

b) 取り組み

1. 国家試験の昨年度(2024)の合格率は、前年度(2023)より 30%下がってしまった。目標を達成できているとは言えない。留学生の合格率、日本人の合格率ともに下がってしまった。これは、コロナ禍の影響で、学生数が通常より極端に低かったことが影響している。しかし次年度留学生国家試験受験者の学力は前年度より、若干向上しているので、2023 年度のように、合格率 80%以上に引き上げることが必須である。本年度の国家試験対策は、昨年度実施した国家試験対策講座での学力別グループ学習の時間数及び内容を充実させることとする。
2. 基礎学力向上のための介護用語テストは、引き続き行う。また、早いうちから全員に対して、国家試験に向けた補講や小テスト等を実施する。留学生には、引き続き日本語能力の向上を図る。アクティブ・ラーニング等によって介護過程の展開能力の向上を図る。
3. 除籍者、退学者に関しては、入学試験の厳正化によりミスマッチを防ぐ。また、2026 年度の入学者より国家試験の経過措置が終了予定なので、留学生に関しては日本語能力のレベルを上げて入試を行う。入学後はきめ細かい指導援助体制で対応する。留学生に対する出入国在留管理庁の対応等にも引き続き注意を払う。
4. 入学者数は、2 年連続で増加している。次年度から入学定員を減ずるが、引き続き日本人、留学生とも定員割れの内容の確保を目指す。日本人に関しては、現役生と現役生の保護者に向けた介護福祉士の理解を深めるオープンキャンパスの工夫、留学生に対してはより積極的な日本語学校訪問、日本語学校教員、日本語学校在籍留学生に向けて在留資格介護の理解の深化を図る。
5. 次年度も引き続き教員研修の積極的参加、および内部研修の充実を目指す。

c) 成果

1. 国家試験の合格率は昨年より上がったものの、当初たてた 80%の目標を達成できていない。日本人の合格率は上がったが、留学生の合格率は伸び悩んでしまった。なお、本年度の国家試験対策は、昨年度実施した国家試験対策講座での学力別グループ学習の時間数を一部増加させた。
2. 基礎力向上に向けた介護用語のテストにより、昨年度に引き続き学力向上に一定の効果があつた。しかし、一部の学生の介護過程の展開に関する理解には、課題が残っている。
3. 2023 年度の入学者は、日本人は増えたが、留学生は激減した。2024 年度は日本人は増減はなかったが、留学生が増加した。本年度は進路変更等による退学者が若干名いたので、引き続き入学試験の厳正化によりミスマッチを防ぐような取り組みの強化が必要となる。
4. 次年度の入学者の定員充足率は 85%となっている。日本人は 1.5 倍と増加、留学生は減少している。留学生の減少は、経過措置終了等を見込み合格基準を厳しくしているためである。2027 年度の入学者に関しても日本人と優秀な留学生の学生数増加を目指す。

5. 教員による研修の参加は昨年に引き続き良好といえる。また学内研修も定期的の実施できた。さらに、教員が法人グループ内、及び外部の研修講師を担当することで教授力の向上を図ることができた。

d)次年度に向けた取組み

1. 国家試験の合格率は、前年度より向上した。しかし次年度は留学生国家試験受験者の学力は前年度より低い、合格率を引き上げることが必須課題である。国家試験対策講座では本年度同様早いうちから学力別グループ学習を充実させることができた。次年度は引き続き早いうちから国家試験を意識した学習を行う。
2. 基礎学力向上のための介護用語テストは、引き続き行う。また、早いうちから全員に対して、国家試験に向けた補講や小テスト等を実施する。留学生には、引き続き日本語能力の向上を図る。アクティブ・ラーニング等によって介護過程の展開能力の向上を図る
3. 除籍者、退学者に関しては、2027年度に向けて、2026年入学者の入学試験と同様に厳正化によりミスマッチを防ぐ。また、近年、留学生だけでなく日本人も含め、学生の多様化がますます進んでいる。入学後は、個別の状況を把握しながら、個別指導、個別面談および3者面談等を取り入れ、きめ細かい指導援助体制で対応する。留学生に対する出入国在留管理庁の対応等にも引き続き注意を払う。
4. 定員減等を考慮しながら、日本人は当然のこと、留学生は本年度以上の確保を目指す。介護福祉士+ α としてIT化等される介護現場に対応できる人材を育成する（IT開発企業、IT化を進める施設との連携等）。日本人に関しては、現役生と現役生の保護者に向けた介護福祉士の理解を深めるオープンキャンパスの工夫。社会人(委託訓練生)にはリスクリングの可能性について理解を深める。留学生に対してはより積極的な日本語学校訪問、日本語学校教員、日本語学校在籍留学生に向けて在留資格介護の理解の深化を図る。
5. 次年度も引き続き教員研修の積極的参加、および内部研修の充実を目指す。しかし、IT化されていく介護の現場の状況に関する教授力に課題がある。本年度は、ITに関する教員研修にも力を入れたい。

III. 自己評価・学校関係者評価

基準 1 教育理念、目的

大項目	中項目	小項目 設問項目	自己評価	回答項目
基準 1 教育 理念 目的 人材 育成 像	(1-1) 教育理念、 目的	1. 教育理 念、目的 を定めて いるか	○	①教育理念、目的は明文化されている
			○	②分かりやすく表現されている
		2. 教育 理念、目 的の周知 を図って いるか	○	① HP に公開している
			○	② 入学案内・履修の手引き・学校新聞・通信などに掲載し、入学検討者・学生・保護者・関連業などに配布し周知を行っている
			○	③ オープンキャンパスなどで入学検討者・学生・保護者に、教育理念、目的の説明を行っている
			○	④ 実習先の介護施設・企業には、実習打合せ時に周知している
			○	⑤非常勤講師を含めた教職員に周知している
				⑥周知の対象者を定め、周知の度合いを測定している
	(1-2) 人材育成像	1. 人材育 成像を定 めている か	○	①人材育成像は明文化されている
			○	② 箇条書きにするなど分かりやすく表現している
				③知識・理解、汎用的技能（コミュニケーション・スキル・情報リテラシー）、態度・志向性（リーダーシップ・倫理観）など観点別に分類し、偏りのないことを確認している
		2. 人材育 成像は社 会のニー ズに適合 している か		①人材に対する社会のニーズ調査を定期的に行っている
			○	②学校関係者委員会や教育課程編成委員会で人材要件の適合性について定期的に検討を行っている
			○	③関係企業からの評価を定期的に受けている
			○	④人材育成像の見直しを定期的に行っている
		3. 人材育 成像の周 知を図っ ているか	○	① HP に公開している
			○	② 入学案内・履修の手引き・学校新聞・通信などに掲載し入学検討者・学生・保護者・関連業界などに配布し周知を行っている
			○	③ オープンキャンパスなどで入学検討者・学生・保護者に、人材育成像の説明を行っている
			○	④ 実習先の介護施設・企業には、実習打合せ時に周知している
			○	⑤非常勤講師を含めた教職員に周知している
				⑥ 周知の対象者を定め、周知の度合いを測定している

(学校関係者評価委員会による評価等)

・加算対象であることもあり施設では IT 化が進んでいるので学校で学んできてほしいとの意見をいただいた。

基準 2 教育活動

大項目	中項目	小項目 設問項目	自己評価	回答項目
基準 2 教育 活動	(2-1) 人材育成像 に沿った教育課程の編成・実施方針	1. 人材育成像に沿った教育課程の編成・実施方針を定めているか	☐	①教育課程の編成及び実施方針を明文化している
			☐	②教育課程の編成及び実施方針は箇条書きなどし、分かりやすくなっている
			☐	③カリキュラム構造、教育の方法、評価の方法、成績評価など段階的に分かりやすく表現されている
			☐	④教育課程の編成及び実施方針には専門学校の特徴として企業との連携体制や実践的な職業教育について記載されている
			☐	⑤教育課程の編成及び実施方針には方針通りのカリキュラムが組めたか、教育方法が実施されたかなどを確認する方法が記載されている
		2. 人材育成像に沿った教育課程の編成・実施方針の周知を図っているか	☐	①HP に公開している
			☐	②履修の手引きに記載しガイダンスごとに、学生向けの周知活動をおこなっている
			☐	③教職員会議などで教職員に周知している
	(2-2) 専攻分野における企業等との連携体制の確保と実践的な職業教育の実施	1. 教育課程編成委員会や介護福祉施設、企業などと連携して教育課程を編成しているか	☐	④教職員の周知の程度を測定している
			☐	①教育課程編成委員会を設置している
			☐	②教育課程編成に関連施設、企業の意見を聞く機会を設けている
			☐	③実習受入先の施設などの意見を聴取している
			☐	④卒業生の意見を聴取している
			☐	⑤ ②③④の意見を基に教育課程編成委員会が定期的に点検・評価し、改善している
		2. 介護福祉施設、企業などと連携して実	☐	①実践的な職業教育の内容になっているかをシラバスで点検・評価を行っている
			☐	②連携している施設・企業とは事前・事後の打ち合わせを行っている
			☐	③連携している施設、企業から授業に盛り込むべき内容について意見を聴取している

		実践的な職業教育が実施されているか	☐	④連携している施設、企業に授業参観を依頼し、現場で生かせる授業に努めている
			☐	⑤連携している施設、企業と共同して学習会などを行っている
			☐	⑥地域住民、地域団体・機関などと連携した実践的な教育（授業・演習への招聘、体験学習など）を行っている
	(2-3) 介護分野における教育の特色ある取組み	1. 講義・演習などにおけるアクティブラーニングを展開しているか	☐	①アクティブラーニングを導入している科目のシラバスには到達目標や実施計画が記載されている
				②アクティブラーニングを導入している科目は(60) %程度である
				③介護福祉分野に特化して工夫されたアクティブラーニングは(80) %程度である
				④アクティブラーニングの導入による目標達成の割合を測定する指標を定めている
			☐	⑤アクティブラーニングの展開による学修成果を把握している
			☐	⑥アクティブラーニングの展開の成果・課題の把握をもとに、授業改善に取り組んでいる
		2. 施設、企業などと連携して実習、実技又は演習を行っているか	☐	①教育課程における実習等の位置づけ、介護福祉施設などとの連携のあり方、方針などを明文化している
			☐	②実習先と実施要項・マニュアルについて、検討を行う機会を設けている
			☐	③定期的に実習指導者連絡会議などを開催している
			☐	④実習の学修成果を把握するために、各段階における「達成目標・課題」「身につけるべき価値・態度・知識・技術」などを明文化しており、実習などの成績評価の方法や基準を作成している
			☐	⑤巡回指導教員と実習指導者が、巡回指導の計画（日程）について確認する機会を設けている
		3. 介護分野の教育全般において、人材育成像が示す能力が身につくような取り組み	☐	①人材育成像が示す能力が身に付くカリキュラムになっているか点検・評価を行っている
			☐	②成績評価の方法は人材育成像が示す能力を身に付けさせるために妥当であるか点検・評価を行っている
			☐	③カリキュラムに沿った授業を行っているか調査を行っている
			☐	④シラバスに記載通りの成績評価の方法を実行しているか調査を行っている
			☐	⑤個々の学生の学習状況や進路に応じた目標を定めている
			☐	⑥提出物や試験に関して、フィードバックを行っている

		みを行っているか	○	⑦介護分野の人材育成像が示す能力を体験的に身に付けることのできるプログラムを導入している。
			○	⑧具体的な達成目標を定め、目標を達成したことを測定している
		4. 介護の現場において必要なコミュニケーション能力が身に付くような取組みについて	○	① 利用者や家族の言葉を傾聴し、受容の姿勢で、共感的理解などができるようなプログラムを導入している
			○	② 体験的にコミュニケーション技術を習得できるプログラム(ロールプレイ、グループディスカッションなど)を導入している
			○	③ 障害者、難病等当事者との実践的なコミュニケーション体験ができるプログラムを導入している
		5. 人権・尊厳の価値、法令遵守の意義について理解し、倫理的行動(身体拘束禁止・虐待防止等も含む)ができる取組みについて	○	① 人権・尊厳を理解する事が、介護実践における基本的な姿勢であることを体験できるプログラムを指導している
			○	② 個人の生活や背景、年齢や社会変化に伴い、価値が変化することを通して、多様性を認める必要性を体験できるプログラムを導入している
			○	③ 身体拘束・虐待について考える機会を導入している
			○	④介護の質向上に向けてチームマネジメント能力を身に付けることのできるプログラムを導入している
		6. 認知症や障害のある人の介護に関する基本的な知識・技術が身に付	○	①認知症や障害を引き起こす疾患について医学的・心理的・社会的等、多角的な理解ができるようなプログラムを導入している
			○	②認知症の状況の如何によらず、すべての人が尊厳ある存在であることを体験できるプログラムを導入している
			○	③認知症への専門的な対応の手法(パーソンドセンタードケア、回想法、リアリティオリエンテーション、バリデーション、ユマニチュード等)を体験できるプログラムを導入している

		く取組みについて	☐	④認知症や障害のある人の支援に対して地域連携や他職種協働による支援を体験的に理解できるプログラムを導入している。
		7. 自立支援や予防を目的に潜在能力を引き出す介護技術が身に付くような取組みについて	☐	①自立した生活に向けて介護過程と連動した、根拠のある、介護技術としての教育が行なわれている。
			☐	② グループワークの活用などを通して、介護と自立支援の違いを体験できるプログラムを導入している
			☐	③福祉用具・福祉機器を実際に活用し、自立支援が体験できるプログラムを導入している
			☐	④自分の心身を守るための理論と実践を体験できるプログラムを導入している
	(2-4) 教員の組織体制	1. 専攻分野における資格・要件を備えた教員を確保しているか	☐	①教員名簿（専任・非常勤）を作成している
			☐	②科目ごとに担当教員の必要な資格の一覧表を作成している
			☐	③教員からは必要な資格が取得済みである証拠の提出を求めている
			☐	④法令上必要な教員が確保されていることを確認している
			☐	⑤全教員について授業の持ちコマ数に関する条件と持ちコマ数一覧を作成している
			☐	⑥持ちコマ数に偏りが無いかなど定期的に点検を行っている
		2. 教員の資質向上への取組・施設等と連携した研修会を行っているか	☐	①企業等と連携し、専攻分野における実務に関する研修などを行っている
			☐	②授業及び指導力に関する研修を企業などと連携して実施している
			☐	③研修参加を奨励し、教員の費用負担の軽減措置をとっている
			☐	④全国規模・地域規模の研修は、全教職員に公平に参加機会を提供している
			☐	⑤自己啓発を図る為、研究費を設けている
			☐	⑥FD 研究会を開催している
		3. 教員の資質向上への取組を行っているか	☐	①授業評価は全学的に統一した様式で行っている
			☐	②授業評価は学期毎に実施している
			☐	③授業評価は IT 化して実施している
			☐	④授業評価の結果は教員個人にフィードバックするとともに全体の分析を行いフィードバックしている
			☐	⑤全体の授業評価の結果は毎回分析・評価している
			☐	⑥授業評価の結果は学生に公開している

			☐	⑦教員相互による授業評価を行っている
				⑧授業評価の結果を基に研究会のようなFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動を行っている
			☐	⑨授業評価の結果に関して具体的な達成目標を定めている
			☐	⑩授業評価の結果を昇格・昇給などの参考資料として活用している
		4. 必要な組織体制を整備しているか	☐	①課程（学科）毎に教員の必要な組織体制を明文化している
			☐	②課程ごとに教員の必要な組織体制の構築を確認している
			☐	③教員の業務分担・責任体制は職務分掌規程で定めている
			☐	④組織体制に非常勤講師を含む全科目担当者間会議が含まれている
			☐	⑤同一科目担当者間会議が含まれている
				⑥FD 委員会会議が含まれている
	(2-5) 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準	1. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準を明確に定めているか	☐	①卒業要件、進級要件、単位認定要件、成績評価基準などは学則に明文化している。
			☐	②卒業要件、進級要件、単位認定要件、成績評価基準などについてはHP、履修の手引きなどに掲載し、学生に周知している
			☐	③シラバスに成績評価基準、及び評価方法を記載している
			☐	④成績評価は、授業への参加、テストの成績、実習レポートの提出など多面的に評価することを教員間で合意している
		2. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は適正に運用しているか	☐	①成績評価の結果は教職員会議で共有している
			☐	②成績評価・単位認定、進級・卒業判定について、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取り組んでいる
				③ポートフォリオやレポートにおいてはルーブリックを作成して評価を行っている
			☐	④成績評価方法は、人材育成像が示す能力を身に付けさせる為に適切か点検をしている
				⑤学習成果や授業改善の指標としてGPAを用いている。
	(2-6) 学生相談	1. 学生相談に関する体制を整備し、適切に運営しているか	☐	①学生相談室などを設置している
			☐	②学生相談室規程がある
			☐	③専任カウンセラー（担当者）を配置している
			☐	④相談ファイルの管理は個人情報として管理し、プライバシーの保護を遵守している
			☐	⑤セクシュアル・ハラスメントや苦情相談に関して対応している
			☐	①留学生専門の担当者を配置している

		2. 留学生 が在籍する 場合、 相談体制 を整備 し、適切 に運営し ているか	☐	②国別に卒業生や上級生によるサポート体制がある
			☐	③法律などに関連する事項の場合は、公的な機関などに教職員が必要に応じて同行している
			☐	④留学生と定期的に個人面談を行い生活やアルバイトの状況を詳細の把握し「留学生生活状況記録簿」などに記録している
			☐	⑤相談ファイルの管理は個人情報として管理し、プライバシーの保護を遵守している
			☐	⑥学内で学生の交流会を実施している
		3. 保護者と適切に 連携して いるか	☐	①保護者会があり、定期的に会合を開催している
			☐	②学校新聞・SNSなどを保護者や保証人に学校情報などを伝えている
			☐	③授業公開日・参観日を設けている
			☐	④学生本人の了解の上、保護者や保証人に成績評価・出席日数などを送付している
			☐	⑤適宜、保護者・保証人と学生との三者面談を行っている
	(2-7) 学生生活の 支援	1. 学生の 経済的側 面に対す る支援制 度を整備 し、適切 に運用し ているか	☐	①学資支援制度運営規程を明文化している
			☐	②独自の学費支援制度がある
			☐	③学資の減免制度がある
			☐	④学資の分割納付制度がある
			☐	⑤オープンキャンパス等で入学前の学費支援について説明を行っている
			☐	⑥経済支援の相談窓口を常設している
			☐	⑦学生の学資支援制度の利用状況は把握し、一覧表を作成している
		2. 社会人 学生への 教育環境 を整備 し、適切 に運営し ているか		①社会人が学べるように夜間の授業を開講している
				②土、日曜日の補講を開講している
				③土、日曜日、夜間も図書室が使用できる日を設けている
			☐	④Web による相談窓口を設けている
		3. 課外活 動に対す る支援制		①クラブ活動の参加者名簿、活動報告書の提出を義務付けている
				②学校新聞・SNSなどでクラブ活動状況を伝えている

		度及び体制を整備し、適切に運用しているか		③運営費の補助金を支給している
			○	④必要に応じて教職員が引率している
	(2-8) 卒業生への支援	1. 卒業生への支援体制を整備し、適切に運営しているか	○	①同窓会がある
				②毎年同窓会を開催している
			○	③同窓会には教職員も参加している
			○	④卒業後も再就職等相談に対応している
				⑤介護協や介護士団体などの講演会や技術講習会の案内を送付している
			○	⑥キャリアアップの講習会や技術講習会を開催している
	(2-9) 入学者の募集、入学選考	1. 入学者受け入れ方針を明確にしているか	○	①入学者受け入れ方針は明文化されている
			○	②箇条書きにするなど分かりやすく表現している
			○	③知識・理解、汎用的技能（コミュニケーション・スキル・情報リテラシー等）、態度・志向性（リーダーシップ・倫理観など）観点別に分類し、偏りのないことを確認している
		2. 入学者の募集活動は入学者の受け入れ方針に従って適正かつ効果的に行っているか	○	①募集活動は入学者の受け入れ方針に従っている
			○	②各入試形態に応じて、適切な時期に願書の受付期間を設定している
			○	③学校案内が分かりやすいか、知りたいことが載っているかなどオープンキャンパス参加者から意見を聴取している
			○	④スマートフォンによるツイッターやインスタグラム等の多様なメディアを用いて学校のPR活動を行っている
		3. 入学選考方法	○	①高校推薦入試を導入している
			○	②AO入試を導入している
			○	③指定校推薦入試を導入している
			○	④社会人推薦入試を導入している
			○	⑤留学生入試を導入している
			○	⑥一般入試を導入している
		4. 入学選考方法を	○	①入試選考方法は明文化されている
			○	②箇条書きにするなど分かりやすく表現している

		明確に定め、適正に運用しているか	☐	③入学選考方法は入学者受け入れ方針に沿って作成している
			☐	④入学選考は規程に従い、公平、正確に審査している
			☐	⑤入学選考方法の妥当性については定期的に見直しを行っている
		5. 入学手続きは適正に行っているか	☐	①規程に基づき入学手続きを行っている
			☐	②入学辞退者について授業料の返還に関して明記している
			☐	③明記にしたがい授業料の返還を取り扱っている
	(2-10) 専攻分野における教育上の必要性に対応した施設・設備	1. 施設・設備は教育上の必要性に対応できるよう整備しているか	☐	①実習室に関する設置基準・養成施設指定基準を明示している
			☐	②実習室の現状を把握し、設置基準・養成施設指定基準に適合していることを定期的に確認している
			☐	③備品に関する養成施設指定基準を明示している
			☐	④備品に関する現状を把握し、養成施設指定基準に適合していることを定期的に確認している
		2. 施設・設備などの日常点検、定期点検、補修、更は適切に対応しているか	☐	①設備は業者に定期点検を依頼している
			☐	②実習用の機材、用具は事前、事後の点検している
				③実習用の機材、用具は計画的に更新・購入計画を策定している
			☐	④福祉用具取扱い業者に、最新の福祉用具等の紹介を依頼している
		3. 専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を図書室に配架し、学生に必要な応じ閲覧できるような環境を提供しているか	☐	①図書館は採光、防音、空調設備を整備している
			☐	②必要な蔵書、文献、雑誌、参考書等を整えている
			☐	③適切な広さで書籍や机を利用しやすく配置している
				④蔵書はデータベース化して、P Cで検索できる
			☐	⑤蔵書は探し易いように分類されている
				⑥社会人にも利用しやすい閲覧時間帯になっている
			☐	⑦貸出にも対応している
			☐	⑧介護福祉基礎分野の参考図書（ 425 ）冊

			○	⑨介護福祉分野の専門書（ 1120 冊）
			○	⑩介護福祉分野の定期刊行物（ 3 種類）
（学校関係者評価委員会による評価等） ・入学定員減について心配の声もいただいたが現在の入学者数を鑑みると妥当である旨お伝えした。 ・比較的軽度な障がい者の通う施設に勤務している委員の方からイベント（レク）等で学生と交流ができると双方のために良いのではないかと意見をいただいた。				
基準3 学習成果				
大項目	中項目	小項目 設問項目	自己評価	回答項目
基準 3 学習 成果	(3-1) 専攻分野の 教育活動に おける目標 達成と改善	1. 学生が 身に付け た学修成 果（アウトカム） は、目標 とする水準にある か	○	①目標を定めている
			○	②目標を達成したことを測定する評価指標、評価基準を定めている。
			○	③目標を達成したことを評価指標、評価基準により判定している
				④判定結果目標を達成している
			○	⑤概ね目標を達成し、ある程度成果を上げている
				⑥目標を達成できず、あまり成果を出していない
		2. 目標達成が十分でない場合、教育活動などの改善を図っているか	○	①判定結果を教職員で共有する機会を設けている
			○	②目標未達成の原因を専門的見地から分析を行っている
			○	③分析結果を基に対策会議などを開催している
			○	④教育活動等の改善対策を実行している
	(3-2) 就職率向上の 取組みと 成果	1. 就職支援・相談体制を確立しているか	○	①就職支援・指導委員会を設置し、運営している。
			○	②就職相談室や就職支援室を設置している
			○	③就職支援・指導に関する年間計画（目標・実施方針など）を策定している
			○	④学生個々の「進路指導（相談・支援）カード」などを作成している
			○	⑤入学時から定期的に個別面接を行い、進路について意識させるとともに、要望・希望を確認して進路指導カードに記入している

		2. 就職率向上に十分に取り組んでいるか	☐	①連携している施設・企業の採用担当者に施設・企業の仕事、役割等についての講演を依頼している
			☐	②連携している施設・企業の求人を優先している
				③履歴書の書き方の研修を外部講師に依頼して行っている
				④面接の受け方、マナー等の研修を外部講師に依頼して行っている
			☐	⑤様々な介護現場を見学・実習し介護分野の幅を広げることによって、就職への意欲を高めている
			☐	⑥就職状況に関するデータは全て電子化し、教職員・学生が閲覧できるようにしている
			☐	⑦分析結果を共有するシステムや機会を設けている
			☐	⑧分析結果を基に対策会議などを開催している
		3. 就職率は目標とする水準にあるか	☐	①就職率の目標を設定している
			☐	②目標を達成したことを測定する評価指標、評価基準を定めている。
			☐	③目標を達成している
				④概ね目標を達成し、ある程度成果を上げている
				⑤目標を達成できず、あまり成果を出していない
		4. 離職率や職場定着率を改善する取組をしているか	☐	①一年未満の離職者から相談を受けると共に離職理由を調査する担当部署を設けている
				②一年未満の離職者からの相談記録や離職理由をデータ化し、共有できるシステムを構築している
			☐	③一年未満の離職率や職場定着率の改善に関して対策会議を開催している
	(3-3) 専攻分野における資格取得率の向上の取組みと成果	1. 国家試験受験対策の体制を確立しているか	☐	①国家試験（以下国試）対策（以下国試対策）の方針を決定する会議を設けている
			☐	②国試対策の方針は明文化されている
			☐	③国試対策会議で毎年度国家試験合格率の目標値を設定している
			☐	④国家資格の内容、取得の意義について教職員が共有する機会を設けている
			☐	⑤国試対策の方針に専門科目の内容と国試を関連付けた授業を行うことが含まれており、それを教員間で合意している
		2. 国家試験合格率の向上への取組み	☐	①国試対策の方針にしたがい特別講座や補講を計画的に実施している
			☐	②不合格者の卒業後の指導について窓口を設け継続して対応している
			☐	③模擬試験を受けることを奨励している

			☐	④個人指導を取り入れている
			☐	⑤学習の仕方を指導している
		3. 国家試験の合格率は目標とする水準にあるか		①目標を達成し、成果を上げている
			☐	②概ね目標を達成し、ある程度成果を上げている
				③目標を達成できず、あまり成果を出していない
			☐	④ ②③の場合、全国平均などとの比較・分析など行い、国試対策方針決定会議にフィードバックを行っている
		4. 国家試験以外の資格取得の取組みをしていますか	☐	①資格名（ 普通救命講習、ピアヘルパー ）
			☐	②授業内容と関連して、取得を勧めている
			☐	③介護福祉士の仕事と関連付けて取得を勧めている
	(3-4) 退学率低減への取組みと成果	1. 退学率低減への、取組み	☐	①過去数年間の学年別、学科別の休学・退学者数はデータ化している。
			☐	②退学の実情や要因のデータを分析している。
			☐	③休退学防止のチェックリストを基に学生と定期的に個別面談をしている
			☐	④退学の可能性のある学生への個別対策は全教職員で共有している
			☐	⑤保護者や保証人などに定期的に学校新聞・通信を配布し、また、成績表を送付している
		2. 退学率は目標とする水準にあるか	☐	①退学率の目標を達成している
			☐	②退学率の目標が適切であったか検証している
			☐	③退学率は年々減少している
			☐	④退学率の目標を概ね達成している
	(3-5) 卒業生の専攻分野における社会的評価	1. 就職先等の関係者から、卒業生の活動実績などの状況把握を	☐	①就職先福祉施設・企業などから卒業生の勤務実績について情報を得る機会を設けている
			☐	②就職先の福祉施設など企業へアンケート調査を依頼している
			☐	③関連学会の大会の発表や論文をチェックし、卒業生の研究状況を把握している
			☐	④卒業生交流会で互いの勤務実績や研究実績について情報交換の機会を設けている

	行っているか	○	⑤定期的に通信を発送し、卒業生の勤務実績や研究実績について広報活動に努めている
	2. 卒業生の活動実績を踏まえ、教育活動などの改善を図っているか	○	①改善の取組に関する会議を開催している
		○	②改善策に優先順位を付けて取り組んでいる
		○	③各改善策に対して振り返りの会議を開催している

(学校関係者評価委員会による評価等)

- ・就職先の種類別の割合について質問があった。半数以上が特別養護老人ホームで次に老人保健施設が多い。施設の多さに加え実習先に就職する人が多いことも影響していると思われる。しかし、障がい者施設や訪問に目を向ける学生も増えていると感じていると回答した。

基準 4 内部質保証

大項目	中項目	小項目 設問項目	自己評価	回答項目
基準 4 内部 質保 証	(4-1) 関係法令・ 専修学校設 置基準等の 遵守と適正 な学校運営	1. 法令や 専修学校 設置基準 等を遵守 し、適正 な学校運 営を行っ ているか	○	①学校運営上必要な諸規程などの一覧表を作成している
			○	②一覧表の規則・規程などを適切にファイリングしている。
			○	③教職員は規則・規程などを自由に閲覧できるようにしている
			○	④ハラスメントに関する方針を明文化している
			○	⑤ハラスメント対応マニュアルを作成している
			○	⑥ハラスメントなどの相談窓口を設置している
			○	⑦コンプライアンスの相談・通報窓口を設置している
		2. 個人情報 の保護の ための 対策をと っている か	○	①個人情報保護に関する方針・規程などを明文化している
			○	②個人情報保護に関する対応マニュアルを作成している
			○	③個人情報の取り扱い、運営などの関する会議を定期的開催している。
			○	④個人情報の漏洩が起きた場合、緊急対策会議などを招集するシステムを構築している
			○	⑤学生には入学時に個人情報保護に関する方針・規程・取扱要領などを説明している
	(4-2) 学校評価の	1. 学校評 価の実施	○	①自己評価の目的・方針を明文化している
			○	②自己評価実施方針を明文化している
			○	③自己評価実施のマニュアルを作成している

	実施と結果 の公表	と結果の 公表	☐	④実施マニュアルには目標達成は評価指標と評価基準にしたがって行うことが謳われている
			☐	⑤自己評価報告書は学科ごとに作成している
			☐	⑥自己評価報告書はHPで公開している
			☐	⑦自己評価報告書は学校関係者評価委員に配布されている
			☐	⑧自己評価報告書は教職員に説明配布している
		2. 学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、結果を公表しているか	☐	①学校関係者評価委員会の方針や運営規程は明文化されている
			☐	②学校関係者評価の評価項目を定めている
			☐	③学校関係者評価委員会は改善の提案ができるシステムとなっている
			☐	④学校側は学校関係者評価委員会の改善に関する提案に対して回答をしなければならないシステムになっている
			☐	⑤学校関係者評価委員会を定期的開催している
	(4-3) 学校評価に基づく改善の取組と教育情報公開	1. 学校評価の結果をフィードバックし、学校教育と学校運営の質の改善と向上のための取組を組織的かつ継続的に行っている	☐	①評価結果を基に学校改善を推進する担当部門がある
			☐	②評価結果を基に学校改善は全教職員で取り組んでいる
			☐	③取組み状況、進捗状況は教職員会議で周知されている
			☐	④改善の達成目標を定めている
			☐	⑤目標の達成状況を測定する評価指標と評価基準を作成している
			☐	⑥改善結果は期待値通りで目標を達成している
			☐	⑦改善結果はほぼ期待値通りで目標をおおむね達成している
			☐	⑧改善結果は期待値通りではなく、目標は達成されていない
		2. 教育情報に関する	☐	①学校の情報公開に関する方針やの規程を明文化している
			☐	②情報公開は規定に従って行われている

		る情報公開を積極的に行っているか	○	③職業実践専門課程の認定要件に規定されている公開情報はHP上で更新して公開している
			○	④教育情報に関して積極的に情報公開に努めている
(学校関係者評価委員会による評価等) ・特に意見等はなかった。				
基準 5 学校運営・財務				
大項目	中項目	小項目 設問項目	回答欄 ○を付ける	回答項目
基準 5 学校 運営 ・ 財務	(5-1) 運営方針・ 事業計画	1. 運営方針・事業計画・重点目標を適正な手続きで決定しているか	○	①学校運営会議を定期的開催している
			○	②学校運営会議では事業計画、予算計画、中期計画等の審議をしている
			○	③会議議事録を作成し、教職員が何時でも閲覧できるようにしている
		2. 運営方針と事業計画・重点目標を文書化し、教職員に周知・徹底しているか	○	①学校運営会議の成果物（運営方針・事業計画・重点目標）は明文化されている
			○	②成果物は運営委員に配布している
			○	③成果物は教職員がいつでも閲覧できるようになっている
			○	④事業計画書、重点目標の執行体制と業務分担は明確に定められている
			○	⑤事業計画書を戦略、スケジュール化している
			○	⑥事業計画書の戦略、スケジュールは教職員が共有している
			○	⑦達成目標は明文化されている
			○	⑧目標の達成を測定する評価指標と評価基準を設定している
			○	⑨目標の達成を測定している
	(5-2) 学校運営組織の整備	1. 学校運営組織を適正に運営しているか	○	① 理事会、評議員会は、寄附行為に基づき運営開催していることを確認している
			○	②理事会、評議員会の議事録は作成している
			○	③理事会、評議員会の議事録は役員に配布している
			○	④理事会、評議員会の議事録は教職員が閲覧できるようにしている
			○	⑤寄附行為の改定は、適正な手続きを経て行っていることを確認している

			☐	⑥諸規程は適切に運用されていることを定期的に確認している
			☐	⑦諸規程は定期的に見直している
			☐	⑧規則・規程等は適正な手続きを経て改正していることを確認している
			☐	⑨学校運営に必要な事務及び教学組織はそれぞれ部、課に分かれ、位置づけが明確になっている
			☐	⑩教職員の業務分担・責任体制は職務分掌規程で定めている
			☐	⑪各部・課は適切な人員で構成されている
			☒	⑫教職員の職制等に応じた研修を導入している
		2. 人事、給与に関する制度を整備し、適正に運用しているか	☐	①採用基準、採用手続及び昇給・昇格、人事考課に関する基準・規程等を作成している
			☐	②採用基準、採用手続及び昇給・昇格、人事考課に関する基準・規程等は、教職員がいつでも閲覧できるようにしている
			☐	③昇給・昇格、人事考課に関する基準・規程等に従い 適正に運用されているか確認している
			☐	④給与規程は明文化され、教職員がいつでも閲覧できるようにしている
			☐	⑤給与規程が適正に運用されているか確認をしている
			☐	⑥人事評価制度を導入している
	(5-3) 学校における安全対策・防災組織	1. 学校における安全管理体制を整備し、適切に運営しているか	☐	①学校安全計画を策定している。
			☐	②学校安全計画は教職員がいつでも閲覧できるようにしている
				③防犯マニュアルを作成している
			☐	④授業中や実習中の事故などに関するマニュアルを作成している
			☐	⑤授業中や実習中の事故などに関する安全体制を整備している
		2. 防災に関する組織体制を整備し、適切に運営しているか	☐	①消防計画を作成し消防省に届けている
			☐	②消防計画は教職員に周知を図っている
			☐	③年に1度以上消防訓練を実施している
			☐	④消防訓練（避難訓練）は学生も含めて実施している
			☐	⑤防火点検は法令に従い実施している
			☐	⑥大規模災害に対する危機管理マニュアルを作成している
			☐	⑦教職員や学生に大規模災害の研修会を開催している
			☐	⑧大規模災害時における地域などとの連携体制を整備している
			☐	①学校保健計画を策定している

	(5-4) 学生の健康管理	1. 学生の健康管理を行う組織体制の整備し運営しているか	☐	②学校医を専任している
			☐	③担当職員を配置している
			☐	④全校で定期健康診断を実施している
				⑤有所見者への再健診は学校医の責任で対応している
			☐	⑥有所見者への再健診は学生に任せているが、再受診の催促は2回以上行っている
			☐	⑦感染症や食中毒の予防の教育を実施している
			☐	⑧実習前には感染症や食中毒の検査を実施している
			☐	⑨心身の健康相談に対応している
			☐	⑩連携している医療機関がある
	(5-5) 財務運営	1. 事業計画等に基づき予算を編成し、適正に執行管理を行い、決算書を作成しているか	☐	①主要な財務数値に関する財務分析を行い、学校及び法人の財務関係比率について指標や基準を定めている
			☐	②学校及び法人の財務関係比率は上記の指標、基準に照らして評価が行われている
			☐	③評価結果は十分である
			☐	④予算規程、経理規程は整備されている
			☐	⑤目的・目標に対応した予算になっている
			☐	⑥各予算に根拠資料が添付されている
			☐	⑦予算編成は各部門で作成している
			☐	⑧各部門の責任者で構成する予算検討会議で検討している
			☐	⑨事業計画及び予算は理事会で最終決定している
			☐	⑩各予算の編成・決定過程は議事録が作成されている
			☐	⑪期中で目標と実績のズレを確認している
			☐	⑫予算超過が見込まれる場合、補正予算理事会を開催している
			☐	⑬会計士等の専門家に相談する体制がある
		2. 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	☐	①学校法人会計基準の財務関係比率について目標を定めている
				②目標を達成している
			☐	③目標を概ね達成している
				④目標を達成していない
			☐	⑤中期計画を策定している
			☐	⑥中期計画は毎年、見直しをしている

	(5-6) 監査・財務 情報の公開	1. 私立学 校法及び 寄附行為 に基づき 適切に監 査を実施 している か	○	①監事・監査規程を作成している
			○	②監事・監査規程にしたがって監査報告書を作成し理事会で報告して いる
			○	③監事による監査を定期的に行っている
			○	④監査に加え公認会計士等による外部監査を実施している
		2. 私立学 校法に基 づく財務 情報公開 体制を整 備し適正 に運用し ているか	○	①情報公開規程や財務公開規程は明文化されている
			○	②情報公開規程や財務公開規程は教職員が何時でも閲覧できるよう になっている
			○	③公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書はすべて作成して いる
				④HP に掲載し公開している

学校関係者評価委員会による評価等)

・特に意見等はなかった。

関東福祉専門学校 学校関係者評価委員会 委員名簿

	氏名	職名等	区分
委員	高橋 信人	志学会高等学校 学校長	高等学校関係者
委員	橋本 純世		保護者
委員	森下 美幸		保護者
委員	山口 裕也		保護者
委員	鈴木 晃	障がい福祉サービス事業所 夢工房翔裕園	卒業生
委員	丸山一之	税理士	専門家
委員	鈴木 効子	介護老人保健施設 いこいの家 事務長	企業関係者
委員長	赤坂 弘美	特別養護老人ホーム 共生の家 施設長	企業関係者